

「何かを為す」と云う観念に、長い長い間、人間は囚われてきた。

それは宿命かもしれないし、使命感かもしれないし、強迫観念かもしれない。

何かを為す、そこにこそ人間の生きる意味がある。

何を為したかで、人間の価値が決まる。

歴史上において、そう思いこみそう確信して、何かを為してきた者のいかに多いことか。

有名無名を問わず。

これが結果論として、数え切れない人間の不幸を生んできたのではないか。

太宰治『ヴィヨンの妻』の「生きていさえすればいいのよ」なんて言葉は誰も云わない、云ってくれない。

「為政者」なんて言葉がある。

政治を為す者。

だが現代の政治を観ていると、政治家は「為す」者よりも、「為さない」者のほうが、国民にとってありがたい気がする。

余計なこと、余分なこと、余地のないこと、余談にしかならぬこと、余生の語りぐさにしかならぬこと、などなど、そんなことばかり為す政治家が幅をきかせている。

それで提案。

もはや、「為す」はやめて、「為さない」を、人間の基準値としたらどうか。

「為さない」精神は、「中庸」の精神につながる。

「為さない」五ヶ条は、俗称「ナイナイ5」と呼ぶ。

◎人生為さない五ヶ条

一、金持ちにならない。

二、財産を残さない。

三、家を建てない。

四、車を持たない。

五、テレビを観ない。

◎健康為さない五ヶ条

一、無理しない。

二、やりすぎない。

三、薄着しない。

四、食べ過ぎない。

五、力まない。

◎会社為さない五ヶ条

一、威張らない。

二、ごまかさない。

三、頑張りすぎない。

四、陰口をたたかない。

五、姑息にならない。

◎異性為さない五ヶ条

一、嫉妬しない。

二、ストーカーしない。

三、愛さない。

四、奉仕しない。

五、セックスしない。